

文京区立図書館 児童図書選定基準

図書館児童サービスの最大の目的は、子ども達と本を結びつけ、読書の楽しみを知ってもらうことであり、私達児童担当者の職務はよい本を書架に排列し、子どもと本のめぐり合いの場所を保障することである。そして私達の願いは、子ども達が読書を通じて生活を広げ、豊かな感性、想像力を身につけて成長してくれることである。

現在、多数の子どもの本が出版されているが、質的には商業ベースにのった名作ものの安易なダイジェスト版、改ざん物、一時的流行に便乗したもの等々、劣悪なものがかかり含まれている。私達はこのような出版状況の中で、児童サービスの果す役割の大切さを改めて見直す必要がある。特に本の選定において十分検討し、幅広い考え方をとり入れ、さまざまな興味に対応できるよう心がけるべきである。

このような立場から、選定基準を作成し、今後の本の選定にあたっていくこととする。

なお、各ジャンルの基準に先だって全体的に次の4点を考慮すべきである。

- 1 正確な記述であること。また、子どもの発達段階に応じた健全で子どもの感性を豊かにできるもの。それを伝えるための適切な表現であること。
- 2 漢字、かなづかいが適切で、写真、図表、年表など子どもの理解を助けるものが十分配置されているもの。
- 3 製本、装丁が整い、しっかりしたもの。
- 4 著者、出版社の姿勢が信頼できるもの。

ただし、この選定基準は、一定の年限をおいて見直していく必要がある。

昭和60年 2月作成

平成19年 3月改訂

平成30年10月改訂

〔参考図書 辞書、百科事典、年鑑、図鑑など〕

正しい情報を入手するための情報源である。また、広い主題や事柄にわたるものであるから、個人の著作というよりも編集者や多数の寄稿者により、長時間にわたり製作されたものである。

評価ポイント

1 項目の選定とその扱い方

- (1) 子どもの学習に必要な項目が十分に用意されている。
- (2) 大項目と小項目のとり方に調和がとれている。
- (3) 客観的に公平である。特に思想・政治・宗教・イデオロギーあるいは学問上、偏見がない。

2 項目の記述

- (1) 項目の説明は子どもの能力に適したもので、その情報と量について検討する。特に記述の正確性、最新性（改訂の度数）及び可読性（補遺の形式）については充分調べる。

3 項目の配列と索引

- (1) 項目の配列がその本の特性からみて適切である。
- (2) 図版が適切かつ十分である。
- (3) 索引と参照が十分である。

〔哲学・宗教〕

特定の学派、思想、人種、宗教に偏ることなく公平に、より深く、幅広く理解できるものが望まれる。

評価ポイント

- 1 子ども向けにわかりやすく書かれている。
- 2 子どもに生き方、考え方を促す内容である。
- 3 宗教に関しては、布教を目的とした資料は収集しない。
- 4 各宗教の現状、意義、その在り方を客観的に理解できる内容である。

〔伝記〕

特定の人物の生きざまを通しての歴史研究であるから、事実を正確に伝え、しかも被伝者の生きた

【資料集 11】文京区立図書館児童図書選定基準

時代をより深く、幅広く理解できるものが望まれる。

評価ポイント

- 1 被伝者の業績が書かれている。
- 2 被伝者の人間性があらわされている。
- 3 年譜、地図、その他図版も含めて史実（事実）をわかりやすく、正確に伝えている。
- 4 わかりやすい文章である。ふりがなや、注釈が適切である。

〔社会科学〕

学習一辺倒になりがちな分野であるが、地理や社会・政治・歴史など、子どもの広範囲な興味を喚起するような豊富な内容でありたい。

評価ポイント

- 1 資料内容
 - (1) 最近の資料を使っている。(最低5年に一度の改訂)
 - (2) 適切でわかりやすい写真・図（または地図、年表）が使用されている。
 - (3) 索引（語句、人名など）がある。
- 2 記述
 - (1) 正確、簡潔かつわかりやすい記述である。
- 3 参考資料
 - (1) 引用、転載、参考とした資料が明記されている。

〔自然科学〕

子どもの未知の世界に対する夢を広げ、自然や科学への幅広い関心を育てるもの。

評価ポイント

- 1 興味深い内容である。
- 2 正確な知識に基づいている。
- 3 完成された知識としてではなく、未開拓の分野を残した書き方である。
- 4 最新の情報が盛り込まれている。

【資料集 11】文京区立図書館児童図書選定基準

- 5 結果だけでなく、過程や考え方を重視している。
- 6 自然認識の原理や自然への愛情を大切にしている。
- 7 文章がわかりやすく、対象に応じた書き方がされている。構成も適切である。
- 8 図版や表、写真が適切である。
- 9 専門用語の説明、索引、目次が適切である。参考とした資料が明記されている。
- 10 他の本と比べて独自の価値をもっている。

〔生活・芸術 スポーツ、遊び、図工、家庭科、コンピュータ、音楽、乗り物等を扱っているもの〕

読むこと自体の楽しみより、その本で遊び、知識を増やし、興味を深めるようなものが望まれる。

評価ポイント

- 1 わかりやすく、正確な写真、絵画、グラフ、図などにより、丁寧に説明されており、子どもの理解を助けている。
- 2 日常生活に役立つ内容である。
- 3 子どもの要求や能力に合致し、経験を充実させることができる。
- 4 最新の情報が盛り込まれている。

コンピュータ

- 1 特定のソフト等に偏りすぎない総合的な内容である。
- 2 最新の資料を使っている。(最低3年に1度の改訂)

〔国語・外国語〕

ことばの大切さを知り、興味を深めることによって、創造的な精神のよこびを見い出せる内容でありたい。なお、子どもの作品も積極的に収集する。

評価ポイント

- 1 子どもが共感できる内容であること。
- 2 子どもに想像力を持たせ、感性を豊かにすることができる。
- 3 子どもの知的、情緒的な経験を広げることができる。
- 4 ことばを使って遊ぶ楽しさがあり、ことばのセンスが磨かれる内容である。
- 5 子どもの興味や発達段階にふさわしいことばや絵であること。

【資料集 11】文京区立図書館児童図書選定基準

詩歌

- 1 解説、現代語訳などが正確でわかりやすく、作品のイメージを損なわないもの。
- 2 ことばがわかりやすく、適切で、リズムカルである。
- 3 絵と文が一体となって構成されている。

作文・感想文

- 1 身近な物を題材に子どもが書けるような内容のもの。
- 2 例示が豊富なもの。

辞典類

〔参考図書〕を参照

外国語

- 1 多言語に興味や理解を持たせる内容のもの。
- 2 日常生活に役立つ内容のもの。

〔幼年童話〕

絵本から文章ばかりの文学に移行していく時期に読まれる本であるから、幼年期（小学校低学年まで）の子どもの経験を広げ、想像力をふくらませることのできるものであること。

評価ポイント

- 1 幼年期（小学校低学年まで）の子どもの経験と理解に沿った内容で、起承転結があり、親しみのもてるものである。
- 2 文体は簡潔でテンポがあり、リズムカルな文章で語られている。
- 3 さし絵は内容の理解を助け、想像力を豊かにするものである。

〔児童文学〕

文学性があり、知的にも精神的にも子どもの成長に末長く役立つものを、その本を読むにふさわしい読書能力をもった時期に与えたい。

評価ポイント

- 1 資料内容
(1) 文学性があり、子どもに想像力をもたせ、感性を豊かにすることができる。

【資料集 11】文京区立図書館児童図書選定基準

- (2) 子どもの知的、情緒的な経験を広げることができる。
- (3) 読者が興味をもって読みすすめるおもしろいもの。
- (4) 読者に納得のいく形でストーリーが展開されている。
- (5) 登場人物が生き生きと描き分けられている。

2 表現

- (1) 対象にふさわしい適切な表現である。
- (2) さし絵が内容にふさわしい。
- (3) 漢字・かなづかい・ふりがなが適切である。
- (4) 翻訳作品は原文に忠実に翻訳され、原文の持ち味が生かされている。日本語としてこなれた表現である。
- (5) 古典作品は解説、注釈、現代語訳などが正確でわかりやすく、作品のイメージを損なわないもの。

〔昔話〕

昔話は口承文芸の一つとして語り継がれてきたものであり、子どもが初めて出会う文学である。語りの場が少なくなっている現在、文字で伝えられている昔話の中から良質のものを選びたい。

昔話の特徴

- 1 口承文芸である。
- 2 初めと終わりに一定の句（「むかしむかし」「どっとはらい」など）を有しているものが多い。
- 3 時代、場所、登場人物は、特定ではない。
- 4 ストーリー性がある。
- 5 時代背景や風俗、習慣が映し出されているため、汚さや残酷性なども語られている。
- 6 主人公など、登場人物の行動の動機説明はない。
- 7 場面が写實的に描写されておらず、事実だけを簡潔に述べている。
- 8 神話や伝説とは区別される。

評価ポイント

- 1 昔話の特徴を備えている。
- 2 原話の精神と表現をそのまま生かし、その地方（国）に伝わるままの状態で見話されている。特に、結末等好ましくないと思われる部分を削除したり、書き換えたりしていないもの。
- 3 子どもでも耳から聞いたとき、スムーズに受け入れられる再話である。（日本語としてこなれた

【資料集 11】文京区立図書館児童図書選定基準

文章である。)

- 4 さし絵が昔話の雰囲気にあっている。
- 5 各国の昔話を幅広く選ぶ。

〔絵本〕

子どもが初めて手にする本であり、本とのかかわりあいの導入となるものであるから慎重に選びたい。

評価ポイント

- 1 絵と文章は一体となって構成され、絵はそれ自体でストーリーを語っており、しかも質の高いものである。
- 2 内容は子どもの興味や発達段階にふさわしいテーマをもち、起承転結がある。また、形態が内容と一致している。
- 3 ことばがわかりやすく適切でリズムカルである。

外国語絵本

国際児童年記念世界絵本展を契機に収集が始まった外国語絵本は、海外の優れた絵本の原書から、その国の文化に触れるきっかけが得られ、その後もさまざまな形で利用されている。

また、国際化が進み、海外生活の長い子ども達や在日外国人の増加にともない、その読書要求に応えるためにも、必要性の高い資料である。

従って、可能な限り世界各国の優れた作品を選びたい。

評価ポイント

「絵本」の評価ポイントに準ずる。

収集基準

- 1 その国の文化・民族性を表す本を広く収集する。
- 2 優れた画家、作家の作品は積極的に収集する。
- 3 世界的に知られている児童図書賞を受賞した作品は積極的に収集する。
- 4 日本語に翻訳されているもので、評価の高い作品の原典は積極的に収集する。
- 5 日本の作品で、外国語で紹介されたものは積極的に収集する。

【資料集 11】文京区立図書館児童図書選定基準

幼児絵本

評価ポイント

「絵本」の評価ポイントに準ずる。

収集基準

- 1 乳幼児に適した本の作りや紙質が配慮されている。
- 2 乳幼児に身近な内容である。
- 3 乳幼児の発達段階にふさわしい表現方法がされている。

知識絵本

評価ポイント

「絵本」の評価ポイントに準ずる。

収集基準

- 1 各分野の評価ポイントに準じ、形態が絵本であるもの。
- 2 絵本としての要件を満たし、知識への興味や疑問に応えるものとなっている。

〔紙芝居〕

演ずることにより、大勢の子どもが同時に喜びを共有できるものを選びたい。

評価ポイント

- 1 子どもの興味、発達段階にふさわしいテーマをもち、たのしめる内容である。
- 2 「文」は演劇のシナリオにあたるものであるから、地の文章やセリフ、場面の展開などが十分に計算されている。
- 3 集団を対象とするため、絵は遠くからよく見え、単純化やデフォルメを上手に使い、ロング、アップなどにより、劇的なリズムを盛りあげている。また、場面の展開（抜く技術）を計算した構成である。

*紙芝居は、わが国独自の児童文化財であり、絵本と最も異なる点は芸人たちによって伝承されてきた「口演」によって支えられてきた、ということである。つまり、一種の「芝居」である。

【資料集 11】文京区立図書館児童図書選定基準

紙芝居	絵本
<ul style="list-style-type: none">・ 集団で見る・ 演じ手と見る側に一定の距離がある（演じ手と観客）・ 劇を楽しむ・ 集団の共通理解・ 抜く技術による劇的展開	<ul style="list-style-type: none">・ 個人的に見る・ 手にとって見る・ 読み手と見る側に距離がない・ 絵を読む・ 個人的理解・ 納得してページをめくる

〔学習漫画〕

学習漫画も図書館資料として選定し、文化の空間を更に広げていきたい。なお、各分野の選定基準も適用する。

評価ポイント

- 1 主題が明確で、ストーリーがしっかりしている。
- 2 漫画という表現手段によって子どもが理解しやすい内容になっている。
- 3 子どもを対象に描かれたもの。
- 4 内容と絵が一致していること。

〔雑誌〕

評価ポイント

- 1 受験・芸能界・ファッションなど、興味本位の安易な編集に片寄ったりマンガが主力の内容だったりしないこと。
- 2 営利を目的とする過剰な懸賞や付録にひかれることなく、子どもの様々な興味や関心を広げ、かつ深めていくものであること。